

## 安全データシート(SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

**製品**

製品の名称: フィルムブースト 20L  
製品コード: AN03175

**供給者情報**

会社名称: エア・ウォーター・ゾル株式会社  
住所: 東京都千代田区神田東松下町47番1号  
日本マンパワービル7階 〒101-0042 (本社所在地)

担当部署: 研究開発部  
電話番号: 03-5207-3202 (本社代表) 0299-48-4402 (研究開発部代表)  
FAX番号: 03-5207-3209 (本社) 0299-48-4401 (研究開発部)  
緊急電話番号: 0299-48-4402 (研究開発部代表)  
推奨用途及び使用上の制限: 工業用品(洗浄剤)

### 2. 危険有害性の要約

**重要な危険有害性及び影響****特有の危険有害性****GHS分類****物理化学的危険性:**

引火性液体 区分外

**健康に対する有害性:**

急性毒性(経口) 分類できない  
急性毒性(経皮) 分類できない  
急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外  
急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない  
急性毒性(吸入:粉じん及びミスト) 分類できない  
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 分類できない  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1  
呼吸器感受性 分類できない  
皮膚感受性 分類できない  
生殖細胞変異原性 分類できない  
発がん性 分類できない  
生殖毒性 分類できない  
生殖毒性(授乳に対する又は授乳を介した影響) 分類できない  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 分類できない  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 分類できない  
吸引性呼吸器有害性 分類できない

**環境に対する有害性:**

水生環境有害性(急性) 分類できない  
水生環境有害性(長期間) 分類できない  
オゾン層への有害性 分類できない

\* 記載がないものは分類対象外又は分類できない

**GHSラベル要素:****絵表示**

注意喚起語 危険

危険有害性情報 重篤な眼の損傷

**注意書き**

[安全対策] 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

- [応急措置] 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。
- [保管(貯蔵)] 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
施錠して保管すること。
- [廃棄] 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。  
内容物は使い切り、容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS分類に該当しない他の危険有害性：

重要な徴候及び想定される非常事態の概要：

**3.組成及び成分情報**

化学物質・混合物の区別： 混合物

組成及び成分情報

成分名 (化学名又は一般名、別名)	CASNo.	含有量濃度 (質量%)	化学式又は構造式	官報公示整理番号		PRTR法
				化審法	安衛法	
水	7732-18-5	50 ~ 60	H <sub>2</sub> O	-	-	対象外
ポリエチレングリコール	25322-68-3	1.0 ~ 10	(C <sub>2</sub> H <sub>4</sub> O) <sub>n</sub> H <sub>2</sub> O	(7)-129	-	対象外
ポリオキシエチレン(10) ヤシ油脂肪酸モノエタ ノールアミド	61791-08-0	20 ~ 30	明記できない	(7)-264	既存	※
ヤシ油脂肪酸アミドプロピ ルベタイン液(30%水溶 液)	61789-40-0	5.0 ~ 15	明記できない	(9)-2027	既存	対象外
ラウロイルサルコシナ トリウム	137-16-6	1.0 ~ 10	C <sub>15</sub> H <sub>28</sub> NNaO <sub>3</sub>	(2)-1226	-	対象外
ポリエーテルポリオール 系ウレタンポリマー	非公開	1.0 ~ 10	明記できない	非公開	非公開	対象外
ポリオキシアルキ レンエーテル	非公開	1.0未満	明記できない	非公開	非公開	対象外
フェノキシエタノール	122-99-6	1.0以下	C <sub>8</sub> H <sub>10</sub> O <sub>2</sub>	(3)-558、 (7)-78、 (9)-1277		対象外

※ポリオキシエチレン(10)ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミドは製品中に  
2-アミノエタノール (PRTR法第一種指定化学物質、安衛法 表示及び通知対象物質) 1.0%未満  
含有している。

**4.応急措置**

以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること。

**吸入した場合：** 蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、速やかに医師の手当てを受けること。

**皮膚に付着した場合：** 付着物を布にて素早く拭き取る。多量の水と石鹼(又は皮膚用の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しない。  
また大量に付着したり、全身にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。

**眼に入った場合：** 外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。  
眼に入った場合、清浄な水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は、外すこと。その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。眼が開けられない場合、無理にあげさせない。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。できるだけ速やかに医師の手当てを受ける。

**飲み込んだ場合：** 誤って飲み込んだ場合には、水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断を受けること。

無理に吐かせるとかえって危険な場合がある。  
 自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。  
 嘔吐物は飲み込ませないこと。  
 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。  
 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：  
 重篤な眼の損傷

応急措置をする者の保護：

換気を行う。  
 救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク、保護手袋、保護衣等)を着用する。

医師に対する特別な注意事項：

意志にSDS又は製品ラベルを提示し、適切な処置を受ける。

## 5.火災時の措置

**消火剤：** 内溶液は燃えないので、周辺火災に合わせた消火剤を使用する  
**使ってはならない消火剤** 情報なし  
**特有の危険有害性：** 火災によって内溶液等が燃焼すると刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

**特有の消火方法：** 直ちに消火器等で消火する。  
 可能であれば、容器を火元から遠ざける。  
 移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。  
 速やかに避難し、関係者以外は立ち入り禁止とする。  
 加熱により破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。  
 消火活動は十分距離をとって、風上から行う。  
 有毒なガス(CO、NO<sub>x</sub>等「10. 安定性及び反応性」参照)の吸入を避ける。  
 消火のために製品や化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な処置を行う。

**消火を行う者の保護：** 消火者は必ず適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

## 6.漏出時の措置

**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：** ばく露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。  
 眼、皮膚への接触を避ける。  
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。  
 できるだけ換気を行う。

**環境に対する注意事項：** 河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意すること。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。  
 必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材：** 危険でなければ、漏れを止める。  
 不燃性のものに吸収し、後で廃棄処理する。(吸収したものを集める際には清潔な工具を用いる)  
 内溶液が付着した場所は水で洗い流す。  
 付着物、廃棄物などは関係法規に従い処理すること。

**二次災害の防止策：** 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。  
 内溶液がこぼれた場所は滑りやすいので注意する。  
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。

## 7.取扱い及び保管上の注意

**取扱い**  
**技術的対策(推奨)：** 取り扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。  
**局所排気・全体排気：** できるだけ局所排気、全体換気を行う。  
**安全取扱注意事項：** すべての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わないこと。  
 容器を開ける際に、漏れ、溢れ、飛散しないように注意する。  
 飲まない。  
 眼に入れないこと。  
 接触、吸入又は飲み込まないこと。

ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。  
 休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。  
 取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取り扱いをしてはならない  
 この製品を取り扱う際に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 混触禁止物質と接触しないように注意する。  
 内溶液をこぼさない  
 こぼした場所をそのままにせず洗浄する。  
 環境への放出を避けること。  
**接触回避:** 「10. 安定性及び反応性」を参照。  
**衛生対策:** 取扱い後はよく手を洗うこと。うがいをすること。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

**保管**  
**技術的対策:** 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 開封後はなるべく早く使い切る。  
**混触禁止物質:** 「10. 安定性及び反応性」を参照。  
**保管条件:** 幼児の手の届かない所に置くこと。  
 必要な採光、照明、換気の設定を設ける。  
 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。  
 水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。  
 高温になる場所を避けること。  
 容器を密閉し、保管すること。  
 混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。  
 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。  
**安全な容器包装材料:** 情報なし

**8.ばく露防止及び保護措置**

**許容濃度(ばく露限界値又は生物学的指標):**

成分名	管理濃度(安衛法)	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
2-アミノエタノール	設定されていない	3ppm 7.5mg/m <sup>3</sup>	情報なし	情報なし

※安全衛生情報センター、NITE CHRIP記載データ等に基づく  
 ※許容濃度が設定されていないものは省略している。

**設備対策:** 取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備を設置する。  
 全体換気を適正に行う。  
**保護具:** 必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家等の意見を聞いて実施すること。  
**呼吸用保護具:** 有機ガス用防毒マスク、(密閉された場所では)送気マスク等  
**手の保護具:** 保護手袋(不浸透性、耐薬品性等)  
**眼の保護具:** 保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面等  
**皮膚及び身体の保護具:** 保護衣(長袖、不浸透性、通電性)、通電性の靴、前掛け等(耐溶剤性)等  
**適切な衛生対策:** 保護具は清潔で有効なものを使用する。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。  
 作業中は飲食、喫煙をしない。

**9.物理的及び化学的性質**

	内溶液
<b>物理化学的状態</b>	液体
<b>外観</b>	黄色透明
<b>臭い</b>	データなし
<b>臭いの閾値</b>	データなし
<b>pH</b>	8.8 (20°C)
<b>融点・凝固点</b>	データなし
<b>沸点,初留点及び沸騰範囲</b>	データなし

引火点	なし
蒸発速度	データなし
燃焼性(固体,気体)	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	なし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重(相対密度)	1.04(20°C)
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
その他	データなし

## 10.安定性及び反応性

反応性:	通常の使用において安定している。
化学的安定性:	通常の使用において安定している。
危険有害反応可能性:	2-フェノキシエタノール:強酸化剤と反応して危険。
避けるべき条件:	高温多湿な場所での保管。 衝突を避ける。 直射日光を避ける。 混触危険物質との接触を避ける。
避けるべき材料:	情報なし
混触危険物質:	酸化剤、強酸化剤
危険有害な分解生成	燃焼等により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物等)を発生する。
その他の有害性情報:	情報なし

## 11.有害性情報

急性毒性(経口):	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を84.2%含有。 毒性未知成分が0.1%以上なので、区分外から分類できないに変更。
急性毒性(経皮):	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を89.0%含有。 毒性未知成分が0.1%以上なので、区分外から分類できないに変更。
急性毒性(吸入:ガス):	GHS定義による気体ではない。
急性毒性(吸入:蒸気):	データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入:粉じん/ミスト):	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	加成方式が適用できる成分からの判定:  危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を84.2%含有。 毒性未知成分が0.1%以上なので、区分外から分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:	加成方式が適用できる成分からの判定:

呼吸器感受性:	眼区分1の成分合計が10%であり、濃度限界(3%)以上のため、区分1に該当。 データ不足のため分類できない。
皮膚感受性:	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を99.0%含有。
生殖細胞変異原性:	毒性未知成分が0.1%以上なので、区分外から分類できないに変更。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を99.0%含有。
発がん性:	毒性未知成分が0.1%以上なので、区分外から分類できないに変更。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を99.0%含有。
生殖毒性:	毒性未知成分が0.1%以上なので、区分外から分類できないに変更。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。 毒性が未知の成分を99.0%含有。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	毒性未知成分が0.1%以上なので、区分外から分類できないに変更。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	毒性が未知の成分を99.0%含有。 毒性未知成分が1%以上なので、区分外から分類できないに変更。
吸引性呼吸器有害性:	データ不足のため分類できない。
その他:	

## 12.環境影響情報

生態毒性:	製品データなし ポリオキシエチレン(10)ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド: 魚類:ヒメダカ:TLm48:20-30ppm
残留性・分解性:	製品データなし ポリエチレングリコール:難分解性 BOD:815ppm(試料1000ppm濃度) COD:690ppm(試料1000ppm濃度) ポリオキシエチレン(10)ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド:生分解率99.0%以上 ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン液(30%水溶液):生分解率98.0%以上
生体蓄積性:	製品データなし
土壤中の移動性:	製品データなし
オゾン層への有害性:	モンリオール議定書に規制されている物質を含まない。
その他:	現在のところ有用な情報は無いが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意すること。

## 13.廃棄上の注意

残余廃棄物:	廃棄をする場合には、許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理すること。内容成分によっては有害なガス等が発生することがあるので適切な設備で関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。
汚染容器及び包装:	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。洗浄した排水等は地面や排水溝に流さず適切な処理を行い清浄にしてから排出するか、処理業者に委託すること。

## 14.輸送上の注意

「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと	
輸送の特定の安全対策及び条件:	運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に進行。
国内規制	
陸上輸送:	消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
海上輸送:	船舶安全法に定めるところに従う。
海上汚染物質:	該当しない
航空輸送:	航空法に定めるところに従う。
緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号:	情報なし

## 国際規制

陸上輸送(ADR/RIDの規定に従う)

国連番号: -  
 品名: -  
 国連分類: -  
 容器等級: -

海上輸送(IMOの規定に従う)

国連番号: -  
 品名: -  
 国連分類: -  
 容器等級: -  
 海洋汚染物質: 該当しない

MARPOL73/78附属書  
 II及びIBCコードによるば  
 ら積み輸送される液体  
 物質:

IBCコード: -  
 航空輸送(ICA0 /IATAの規定に従う)

国連番号: -  
 品名: -  
 国連分類: -  
 容器等級: -

---

### 15.適用法令

化学物質審査規制法: 優先評価物質:2-アミノエタノール、ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン液(30%水溶液)  
 労働安全衛生法: 名称等を表示すべき危険物及び有害物:  
 該当しない  
 名称等と通知すべき危険物及び有害物:  
 2-アミノエタノール  
 有機溶剤中毒予防規則:  
 該当しない  
 船舶安全法: 該当しない  
 航空法: 該当しない  
 消防法: 非危険物  
 海洋汚染防止法: Z類物質:ポリエチレングリコール  
 未査定物質  
 毒物及び劇物取締法: 該当しない  
 化学物質排出把握管理  
 促進法(PRTR法): 該当しない

---

### 16.その他の情報

本SDSは、JIS Z7253:2012に準拠して作成している。  
 又、JIS Z7252:2014に基づいたGHS分類判定システムを使用し分類判定を実施している。

参考文献: 原料SDS  
 NITE 化学物質総合情報提供システム  
 NIHS 国際化学物質安全性カード  
 環境省 Chemi coco  
 労働安全衛生法対象物質データ

記載内容の取扱い: 全ての資料、文献を調査しているわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の改訂等により内容に変更が生じることがあります。記載された情報は、情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いは細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。